



日本音楽集団

PRO · MUSICA NIPPONIA

第166回定期演奏会
The 166th Regular Concert

新春コンサート

New Year's Concert

2002年1月25日(金)午後7時開演

■主催■

特定非営利活動法人日本音楽集団

■助成■

文化庁・日本芸術文化振興会
舞台芸術振興事業



Arts Plan 21



芸術文化振興基金

新春コンサートによせて

日本音楽集団 代表 田村拓男

新春コンサートによくぞお越しくできました。

春になると毎年のように新しい入団者を迎えています。今回の演奏会では入団間もない人たちを中心にしたプログラミングをしてみました。とはいえ、メンバーたちは入団後ただちに先輩たちの厳しいコーチを受けながらも、さまざまなステージに立って経験を積んできています。

長沢勝俊作品2曲。「冬の日」は誰しものが必ず手がける魅力的な曲で、笛・尺八・琵琶・三味線・箏・十七絃・打楽器という七人編成のこの曲は、ソリストィックであり、アンサンブルの基本を学ぶのに格好な曲でもあります。「飛驒によせる三つのバラード」の愛好者はすでに全国規模ですが、颯爽とした演奏で期待に応えてくれると思います。中堅メンバーによる「豊饒なる国のはてで」(委嘱・初演)(尾形敏幸作曲)、若手大編成による「傀儡曼陀羅」(今井重幸作曲)ともどもお楽しみ頂き、日本音楽集団の次代を担うメンバーたちに温かい声援を賜りますようお願い申し上げます。

プログラム

一、冬の日-パート2 (1980年) 長沢勝俊作曲

Nagasawa Katsutoshi : *A Day in Winter, Part 2*

[笛] 越智成人 [尺八] 砂川憲和 [三味線] 山崎千鶴子 [琵琶] 首藤久美子
[二十絃箏] 渡辺正子 [十七絃] 山田由紀 [打楽器] 若月宣宏

初めて「冬の日」を耳にした時、「何と温かい曲なんだろう」と思いました。その気持ちは今も変わる事はありません。我家でこの曲を練習しておりますと2歳の息子が大喜びし、そして家の中を飛び回っている姿を見ていると幼い頃の冬の楽しい出来事を思い出さずにはいられません。

日本音楽集団の偉大な先輩長沢勝俊氏の作品、「冬の日」、「秋の日」、「夏の日」。この7人編成の作品3曲が私の音楽集団における歴史を作り上げて来たと言っても過言ではありません。これらの作品は、奏者がそれぞれの気持ちを胸に秘め、お互いの目を見、手を見、息を読み、7人の意志により曲を作り上げるというアンサンブルのあり方を、私に教えてくれました。そして、これからも奏者として成長を遂げるよう導いてくれるでしょう。

本日はこの多分にソリストィックな面を要求される「冬の日」を7人の若手の奏者で精一杯表現してみます。

(越智成人)

プロフィール……………長沢勝俊

1923年東京に生まれる。清瀬保二に作曲を師事。64年の日本音楽集団創立に参加。

49年以来人形劇団「ブーク」の音楽を監修。86年歌舞伎・市川猿之助「ヤマトタケル」などの音楽を作曲。

90年紫綬褒章を受章。6回の日本音楽集団の海外公演に参加。

日本大学芸術学部修了。日本音楽集団の名誉代表。

「子供のための組曲」「組曲・人形風土記」「大津絵幻想」「萌春」「錦木によせて」他邦楽器のための作品多数。

二、飛驒によせる三つのバラード(1977年)長沢勝俊作曲

Nagasawa Katsutoshi : Three Ballads to "Hida"

[尺八]加藤秀和 [箏]I田村法子 II徳野礼子 III久本桂子 [十七絃]丸岡映美

1. 歩荷(ほっか)

山を越えて物を運搬する人。厳しい山国の自然と飛驒に生きる人達の生活があります。

2. 立円(たちつぶら)

今でいうベビーサークル。親の子供に対する愛情と生活の知恵を感じさせます。

3. 杉玉(すぎだま)

杉の葉を束ねて作った大きな玉。晴の日の祭の哀歓を描いたものです。

お箏に親しんでいる多くの方が、心に残っている、通称“飛驒バラ”。この曲を演奏できる嬉しさ、楽しさと、それ以上の緊張をそれぞれ胸に、取り組んでまいりました。会場全体をつつみ込む曲の大きさと柔らかさを大切に、今日この時間が、あたたかいものになる様、演奏できればと思います。

(田村法子)

・休憩

三、豊饒なる国のはてで—邦楽器群のための—(委嘱初演)尾形敏幸作曲

Ogata Toshiyuki : A la limite du pays fertile

[笛]I越智成人 II竹井誠 [笙]真鍋尚之 [箏]西原祐二 [尺八]I米澤浩 II砂川憲和
[三味線]杵家七三 [琵琶]田原順子 [二十絃箏]I桜井智永 II熊沢栄利子
[十七絃]早川智子 [打楽器]尾崎太一
[指揮]田村拓男

様々なエクリチュールを試みるうちに、やはり和楽器には、音と音との間に有り得べき空間が、極めて重要であるとの結論に達した。それは、あくまで西洋の定量記譜法の中に置かれる休止符とは異なる次元のものだ。ある特定の時間を音でぎっしりと埋めて行くのではなく、幾つもの仕切られた時空間を、音を置いて行くことで生成する、という発想。そして各楽器に固有な現代的奏法を連続的に誇示したりせずに、豊かな、新しい歌を紡いで行こうと思う。

曲名の「豊饒なる国のはてで」は、パウル＝クレーの画のタイトルから引用されている。

経済、環境などの未曾有の世界的危機のなか、物質的に豊かであるとされる国の片隅で、人間の心の花園には、絶え間なく可憐な花が咲き続けることを願う、一音楽家のメッセージと捉えていただきたい。

(尾形敏幸)



プロフィール……………尾形敏幸

東京生まれ。東京学芸大学大学院修了。大学院在学中に笹川賞、朝日作曲賞等を受賞。作曲を故矢代秋雄、故甲斐説宗、三善晃の各氏に師事。

平成元年度NHK全国学校音楽コンクール高等学校の部課題曲を作曲。平成10年文化庁舞台芸術創作奨励特別賞を受賞。

これまで、合唱作品の分野において全国各地からの委嘱作品に意欲的に取り組み数多く発表して来ている。ピアノソナタ第2番「水晶の典礼」、ピアノ曲「風の伝説II」など、度々演奏される器楽作品も多い。

主な合唱作品に、組曲「風に寄せて」「ギリシャ的抒情詩」「光の生誕」「5つの祈りの歌」「肖像」「Ave Maria」等があり、スケールの大きな楽想と抒情性は高く評価され、幅広い層に支持されている。

四、邦楽器群の為の協奏的変容「傀儡曼陀羅」(1998年改訂)今井重幸作曲

Imai Shigeyuki : Metamorfosi Concertante "Kugutsu Mandala" per Istrumenti musicali der Giappone

[笛]越智成人 [尺八]I加藤秀和・竹井誠 II砂川憲和・米澤浩 [三味線]山崎千鶴子

[琵琶]首藤久美子 [二十絃箏]I田村法子・久本桂子 II岸川光代・渡辺正子

[十七絃]丸岡映美・松下知代 [打楽器]望月太喜之丞・若月宣宏

[指揮]田村拓男

傀儡(くぐつ)とは日本古代の漂泊芸能民の集団で、狩と曲芸に長じ、今様を歌い操り人形を舞わせる傀儡師として諸国を流浪した。その態様に関しては平安時代の大江匡房によって「傀儡子記」に克明に記述されている。その後、義太夫節に合わせる辻芸から慶長年間には人形浄瑠璃の発祥に結び着くのである。

又その源流を辿ると朝鮮半島、そして中国には今も残存する「扁担木偶戯(へんたんでくぎ)」、「斜箭堤陽戯(しゃせんていようぎ)」に到達する。四川省広元の秘境龍江村の李家に今も伝承される祭儀に使われる三十二体の傀儡戯。

八世紀唐の玄宗皇帝の七言絶句にも「傀儡」は登場する。山東省萊西県岱野村の墳墓遺跡の櫛室内から発見された大傀儡木偶は西漢時代つまり二千年も前のものであり、同時に発見された七体の殉死者に替えた木桶の中には琴や笛を演じているものもある。

「傀儡曼陀羅」はその様な汎東アジア芸能の二千年にも亘る流転の軌跡と、傀儡子達のヴァイタリティーのイメージを、序章から終章に至る連続する五章で構成。大曼陀羅の視覚表現の構図を邦楽器の音感覚で捉え、それを発展・展開・変容し表現した作品。
(今井重幸)

96年の初演で初めてこの曲を聴いた時、異国的なメロディーなのにどこか懐かしく、うねるように重なってゆく日本楽器の音が今までと全く違う響きに聴こえてきて、いつか必ず演奏してみたいと強く思った憧れの曲です。

傀儡とは私たちのルーツであり、また現代の私達でもあると思います。芸の力だけを武器として広大な大地を駆け巡り、また海へと漕ぎ出していったたくましい芸人たちの姿を、今日の演奏で少しでも思い浮かべて頂けたらしあわせです。
(山崎千鶴子)

プロフィール.....今井重幸

作曲を石桁真礼生、伊福部昭、Edgar Varèseに師事、主な作品には「交響曲」「打楽器群とオーケストラの為の協奏的変容(沖繩)」、他に映画音楽「愛は惜しみなく」「命どう宝」「繪金」「神々の履歴書」等、TVドラマ「蜘蛛の糸」「杜子春」「ビルマの豎琴」等、舞踊・演劇・映画・テレビ等の音楽が多い。邦楽作品としては「農楽舞」「青峯悠映」「仮面舞第二番」「斜箭提陽」「秋のインテルメッツォ」等がある。現代舞台芸術協会理事、東京造形大学講師。

お知らせ

2002年度日本音楽集団団員募集オーディション

2002年3月27日(水)

詳細は事務局へお問合せください。

TEL03-3378-4741

日本音楽集団第26次海外公演報告

—ワールドカップ共催記念—

《韓・日記念民族楽団》韓国公演



昨年の11月22日夜、165回定期演奏会に出演した後、何人かの団員は津田ホールから笹塚練習場へと急いでいました。それは、2000年春から約20ヶ月を掛けて準備して来た《韓・日記念民族楽団》結成が遂に実現し、ソウルへの出発を翌23日に控え、楽器の最終梱包のためでした。

音楽集団としての訪韓は今回で4度目ですが、今回ほど隣国を訪ねるその「道のり」が遠かったことはありません。準備の過程で日本の教科書問題がプロジェクト実現に大きく陰を落とすからです。

ソウル公演まで4ヶ月となった7月28日、韓国政府が日韓の文化交流を凍結した事を受けたソウル市は、約束していた韓国側楽団への公的補助金3億5千万ウォン(邦貨約3千5百万円)を白紙撤回し、韓国側の楽団は実施を目前に資金面での基盤を全て失うという事態に追い込まれてしまいました。

実現の可能性が断たれたと思われた中、日本側では文化庁アーツプラン・花王芸術科学財団からは変わらぬ理解と支援を、そして新たにJAL・Salesからもサポートを頂きました。又、韓国側では支援基盤を失いながらも朴範薫(パク・ポンプン)先生・国立國樂管絃楽團の情熱と一層の尽力により、遂に11月26日《韓・日記念民族楽団》ソウル公演が決定し、開催に向けては駐韓日本大使館より全面的な協力も頂きました。

ツアーでは最後まで参加メンバーの顔から笑顔が消えなかった事が何よりでした。それは、全員が積極的に今回の事業に取り組んでくれている一つの証だと感じたからです。

そして一人一人が《韓・日記念民族楽団》での合同演奏はもちろん、集団単独での第一部(「新八千代獅子」「シナウイ」「大津絵幻想」)の演奏に寄せられた韓国のお客様の拍手や反応を引き出す原動力になったと思っています。

特に今回、「シナウイ」(2000年11月161回定期委嘱)という韓国の作曲家が韓国の伝統的な形式ののりによって書いた作品で、日本の演奏家が韓国の音楽の心を少しでも感じながら自分の楽器の表現力を駆使した表現が、自国の民族音楽に愛着を持つ韓国のお客様に「間(はざま)に生まれた新たな音楽」としてどこまでアピール出来るか? チャレンジしてみました。

その反響は予想以上のものでした。本番中に舞台袖に集まっていた国立國樂管絃楽團の団員達の姿、終演後にレセプションに向かう私に一生懸命英語で語りかけ自分の興奮を私にも伝えようとして下さったお客様の姿、反響を実感するのにそれ程時間を要しませんでした。

又、民族音楽と舞踊が密接に関係する韓国での公演であることを意識し、舞踊家の藤間舞佳氏にお願いし「大津絵幻想」の2～5章に日本舞踊を振り付けて頂きました。音楽と舞踊でステージを構成出来たことで、お客様方には多面的に日本文化に触れて頂くことができ、各楽章での舞踊家の登場・退場に拍手が起る程の好評を頂きました。

今回の《韓・日記念民族楽団》ソウル公演が、日本音楽集団の世界に広がる活動に一頁を加え、さらに次への一つの道標になる事を願っています。

ご支援・ご協力を頂いた皆様方ありがとうございました。そして、参加した皆さん、お疲れ様でした。

2002年1月25日《韓・日記念民族楽団》プロデューサー 米澤 浩

(プログラム).....

1. 新八千代獅子(畦地啓司・藤舎呂船・三木稔編曲)演奏-日本音楽集団
 2. シナウイ(日本音楽集団161回定期委嘱作品、朴範薫作曲)指揮-朴範薫、演奏-日本音楽集団
 3. 大津絵幻想(長沢勝俊作曲)指揮-田村拓男、演奏-日本音楽集団、
日本舞踊-藤間舞佳・若柳恵華・花柳奈卯女
 4. 伽倻頌(カヤソン:伽倻琴コンチェルト、朴範薫作曲)指揮-朴範薫、
伽倻琴独奏-金日輪(キム・イルリェン)、演奏-韓国国立國樂管絃楽團
 5. SOUL(三木稔作曲)指揮-田村拓男、演奏-韓・日記念民族楽団
 6. 白(ベク、朴範薫作曲)指揮-朴範薫、演奏-韓・日記念民族楽団
- アンコール:アリラン、そうらん節



[韓・日記念民族楽団の構成].....

音楽監督・指揮-田村拓男・朴範薫

演奏者-日本音楽集団17名・國立國樂管絃樂團45名

[日程]

2001年11月23日/成田出発 24日・25日/韓國国立劇場・國立國樂管絃樂團練習場にてリハーサル
26日/《韓・日記念民族楽団》演奏会(韓國国立劇場) 27日/帰国

[日本側出演者] (敬称略・五十音順)

[笛] 松尾典子(助演) [尺八] 加藤秀和・砂川憲和・米澤浩 [胡弓] 畦地啓司 [三味線] 野澤徹也(助演)・山崎千鶴子 [琵琶] 首藤久美子

[箏] 大畠菜穂子・熊沢栄利子・田村法子・久本桂子 [十七絃] 丸岡映美・宮越圭子 [打楽器] 仙堂新太郎・望月太喜之丞・若月宣宏

[日本舞踊] 花柳奈卯女・藤間舞佳・若柳恵華(客演) [指揮]-田村拓男

[日本側スタッフ]

[プロデュース] 米澤浩 [舞台] 蛭海涼・福浦広光 [事務局] 益井紀恵

助成:文化庁アーツプラン21、(財)花王芸術・科学財団

協賛: JAL Sales 後援: 駐大韓民国日本国大使館、大津絵文化協会

追記: 下記ホームページで《韓・日記念民族楽団》ソウル公演の様子が紹介されています。

●日本音楽集団公式ホームページ <http://www.promusica.or.jp/> ●日本音楽集団広報ホームページ <http://www.wahoo-net.com/promusica/>

●米澤浩ホームページ <http://homepage1.nifty.com/yonesan/>

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動を目指したく、ご協力お願い申し上げます。募集の詳細はチラシをご参照ください。

賛助会員 (五十音順)

(株)全音楽譜出版社	中島靖子	飯塚絹子	植木真代	小泉和子	田原たま	水野正徳
		飯吉正山	大木紀史	後藤 隆	堤 紀江	森山俊雄
(株)宮本卯之助商店	青戸順子	家永和治	大関富枝	後藤陽子	手塚愛子	渡辺京子
	青柳 堯	逸見 護	太田颯衣	桜田正憲	野原清子	渡辺ハル
	朝吹英世	伊藤美恵子	川壁 正	佐々木浩二	藤山雅弘	渡辺治子
	安達眞五	今村厚子	岸 彰則	杉田和繁	古川羽衣山	
	新井克輔	今村文彦	木津のぶ	関 厚雄	本田 実	

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033

ホームページURL <http://www.promusica.or.jp/index.html> E-Mail office@promusica.or.jp

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追究した箏

日本音楽集団推薦

有限会社 琴光堂

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437